

【豊見城市教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末及び強固な通信ネットワークの整備を継続し、適切なICT環境を提供することにより、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」が一体的に実現され、児童生徒の学習意欲の向上を図ることで主体性を育んでいくとともに、児童生徒1人1人が、自身の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるような学びの姿を目指していく。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想を踏まえ、令和2年度に1人1台端末を整備し、学校現場では学習場面に応じて、情報の収集や発信・共有のツールとして日常的に活用をすすめてきた。また、デジタルドリル（ミライシード）を導入し、授業支援や家庭学習における持ち帰りの実施等、幅広い活用を進めてきた。

また、端末の整備により、教職員と児童生徒間の情報共有のデジタル化や紙媒体の削減等、教職員の一部負担軽減を図ることができている。

一方、明らかになった課題としては、持ち帰りによる学習頻度について学校間でバラつきが見られ、各学校及び教職員間のスキル格差、端末破損の不安等から保護者の同意を得られない等の理由が原因となっている。運営支援センター事業による研修の充実及び情報支援補助員の積極的活用を促しスキル格差の解消を図りつつ、保護者や地域への理解を得られるよう働きかけていく必要がある。

また、端末導入から3年程経過した頃から、故障台数が増加傾向にあり、修繕費用が大きくなるとともに、一部修繕が間に合わない状況から、各学校予備機台数が大幅に減少しており、GIGA第2期では十分な予備機を整備することで、端末不足への課題解決を図っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期にて整備した1人1台端末は、児童生徒にとっては必要不可欠な学びの道具となっている。GIGA第2期では適切に整備・更新を行うことで1人1台端末環境を引き続き維持することを前提に、以下のように利活用していく。

(1) 「1人1台端末の積極的活用」

端末の家庭への持ち帰りを日常化し、様々な学習の場面において活用する。また、学校と保護者間、学校と児童生徒間の連絡ツールとしての活用も推進していく。

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

端末を活用した日々の学習課題への取組において、デジタルドリル等の積極的な活用により、理解度や学習進度に合わせた個別最適な学びを進めていく。また、教員と児童

生徒、児童生徒同士が端末を活用して情報収集し、共有を図り、学んだ内容や自身の考えを表現するツールとしての活用を進め、協働的な学びの充実を図る。

(3)「学びの保障」

日常の授業で端末を効果的に活用するとともに、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒等に対し、抱えている困難や不安への支援策の一つとして、実態に応じた端末活用を進めていく。